

清流日本一・高津川の素材を活かした地域づくり推進事業  
【NPO法人アングアンテ21・西部県民センター】

取組の背景

- 過疎高齢化により、地域住民だけで環境を保全することが困難になりつつある。
- 流域にある特色ある自然素材など魅力的な地域資源が十分に活用されていない。
- ① 農山漁村の活性化と交流人口の拡大を図る
- ② 自然保護と共存した着地型観光や教育旅行の開発促進
- ③ 高津川の景観保全や環境保護意識を高める

事業概要

- 地域資源の調査・発掘を進め、データの充実と一元化を図ることで情報発信を強化する。
  - 「歩く（観光）・学ぶ（教育）・守る（自然）」の視点から素材活用を提案する。
  - 流域単位の広域的かつ多分野（観光・教育・地域振興）関係機関の連携を促進する。
- ※ 交流活動の推進は、地域外貨獲得による経済の活性化だけでなく、地域の魅力を再認識することに繋がる。地域住民と外部交流者の地域に対する愛着や関心が高まることで、互恵的な環境保全意識の向上や高津川流域の活性化が期待できる。

実施団体と行政それぞれの役割分担

- |   |   |
|---|---|
| <p>【実施団体】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 資源データの調査・収集・分析</li> <li>■ ワーキンググループの運営管理</li> <li>■ 事業報告とりまとめ</li> </ul> | <p>【行政】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 地域振興、観光振興に関する経験・知見・情報データの提供</li> <li>■ ワーキンググループの調整及び助言</li> </ul> |
|---|---|

主な事業内容

1. 高津川流域の地域資源調査・収集・一元化
  - 自然資源、歴史文化資源の収集
  - 学習、教育材料の発掘
  - 観光等関連施設の情報収集
2. しまね田舎ツーリズムの活性化提案
  - 「歩く（観光）、学ぶ（教育）、守る（自然）」の視点で新メニュー提案
3. 官、民、市民組織連携によるワーキンググループの設置
  - 関係者間で活動や情報の共有
  - 事業の進捗管理
  - 地域づくりの方向性、課題の把握共有
  - 推進機運の醸成

事業の主な成果

1. 地域資源の調査・収集
  - 収集データ  
自然素材：343件  
関連施設：443件
  - 情報パーソンの発掘と関係構築
2. 滞在型トレイルルートの提案
  - 広域で地域資源の連結モデル提案
  - 健康・自然・地域志向に着目
3. ワーキンググループ
  - WG会議：計5回開催
  - アンケートによる課題抽出
  - 豊かな自然を活かして地域の活性化に取り組むことを共通認識とした。

工夫・ノウハウ

- 実施団体と行政で、互いの強みを発揮しながら事業を実施した。
- 収集データは、「島根県統合型地理情報システム」を活用し、広く一般に情報発信した。
- 分野を越えた多様な機関の協力を得ることで、各機関の取組みや課題を共有し、相互理解を深めた。
- 他圏域の先進事例を学習し、具体的な事業を検討することで、各機関の連携や参画の意識づくりを進めた。

今後の活動方針

- しまね田舎ツーリズムの推進と情報発信の強化、誘客イベント開催に向けた取組みを進める。
- 環境学習、自然体験活動、環境保全活動など住民参加型の地域づくりと意識づくりを進める。